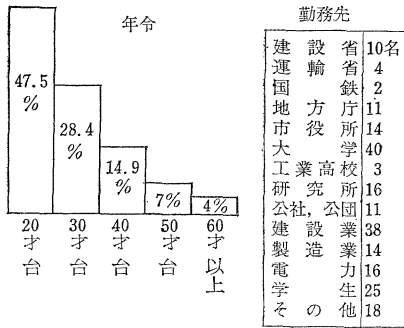


文献調査委員会に関するアンケートの結果と今後の活動

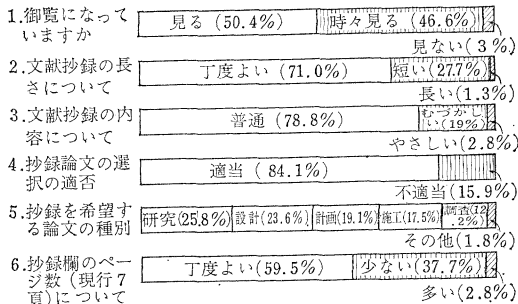
文献調査委員会
委員長 千秋 信一

文献調査委員会では、定常的な委員会活動として、文献抄録、文献目録を作成し、土木学会誌に毎月掲載するとともに、論文題目のパンチカードを作成し学会に常備して会員の皆様の御利用に供しているほか、海外文献から得られる情報にもとづき、会員の方々のお役に立つ資

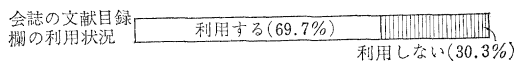
アンケート回答者の年齢構成と勤務先分布



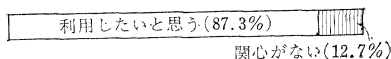
I 文献抄録について



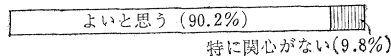
II 文献目録について



III 海外文献論文題目のパンチカードについて



IV 国内機関の外国雑誌備付リスト(会誌48巻1号)などの企画について



料や解説記事を提供するなど各種の活動を行っております。

これまでの委員会活動のあり方について、ひろく会員各位のご批判とご助言をいただき、反省とともに今後の活動の方向を見出すべく、このたびアンケートによる調査を実施いたしましたので、その結果を御報告いたします。

調査の方法は、会員カードからの無作為抽出による全国の会員150名と、5月25日の年次学術講演会の出席者350名とを対象として、アンケート用紙を送付もしくは配布し、それぞれ53名および181名の方々から寄せられた回答計234通を整理集約しました。

回答を下された方々の年齢構成および勤務先分布は左のとおりです。各項別の設問に対する回答結果を左下のようなグラフにまとめてみました。

調査結果の検討と本委員会の今後の活動方針

(1) 文献抄録について

毎号会誌の7ページ分を占める海外文献の抄録が、本委員会の最も中心的な作業であることは申すまでもありません。文献抄録の目的やあり方については、本委員会の前身である抄録委員会がおよそ10年前に常置され、会誌に抄録欄が確立されて以来、常に論議しつづげられてきたところでありますが、現在においては、できるだけ新しい海外文献に見られる特に注目すべき論文、報告、記事などを土木の各分野にわたってひろく均等に選択し、特に専門家を対象とせず会員各層になべて理解しやすく、かつ抄録のみである程度まとまった知識の吸収に役立つような形に、抄録の作成を行っております。今回のアンケートの結果から、文献抄録欄の現状がかなり積極的に是認されたものと解釈されますので、今後も上記の方針に従って皆様のお役に立つ抄録欄の充実に努力致す所存でございます。ご意見の中には、基礎研究の論文に重点を置けという方もあり、反面、もっと実用的な報告記事を紹介せよという御意見もあり、当然どちらの御趣旨にも沿うようにつとめます。英文の抄録に片寄っているというご意見もありましたが、もちろん抄録の価値のあるすぐれた文献についてはひろく各国の文献を紹介するにやぶさかでなく、各国語に堪能な委員を擁しております。なお、現在は委員会で抄録すべき文献の内容を慎重に審議し、その決定に当たっておりますが、前記の方針に従って一般会員からの投稿を歓迎することは申すまでもありません。

(2) 文献目録について

文献目録の作成も本委員会の重要な仕事の一つで、すでに着手以来7年におよんでおりますが、アンケートの結果、大多数の方に利用されていることがわかり、今後

も着実にこの欄の作成につとめ会員の御期待にそう所存です。文献目録は正確な情報を迅速に提供するというたてまえで、海外雑誌については入手後時をうつきず目録化して会誌の至近号に登載するようつとめておりますが、なにぶんにも275種におよぶ雑誌を対象としているため作業量もぼう大で、かつ雑誌の到着にもムラがあるため、情報の提供が渋滞し勝ちなことがままあるのが実情ですが、今後この点に遺憾なきを期したいと思います。

(3) パンチカードについて

当委員会では、会員の方々の海外文献の調査のお役に立つようにパンチカードを作成し、学会に常備しております。パンチカードは、毎号会誌に掲載される文献目録のいわば原簿のようなもので、一枚のカードに一つの論文の原題目、訳題、著者、雑誌名、発表年月、内容種別(理論、実験、工事報告など)、内容梗概を記載し、カード四辺に設けたそれぞれの分類項目に対応する切り込みを利用して、数多くのカードの中から調査の目的に該当するカードを迅速にえらび出すことができるようにしたものです。この、ハンド・ソート式のパンチカードによる文献整理法は昭和36年4月から採用し、爾来2年有余の間に、およそ300種におよぶ内外雑誌(国際会議論文集もふくむ)にのせられた1961年以降今日までの発表論文はすべてカード化され、その数7200件に達しております。今後もこの文献カードは日を追って積み重ねられてゆくわけですが、これほどの資料も学会本部へお越しいただけなければご利用願えない不便さから、いまだ十分に活用されていないのが実情です。もし、ハガキ、電話などによる会員の方々からのお申し越しにより文献調査の便宜をお計りすることができるようになった場合、パンチカードをご利用いただけるかどうかをアンケートでお伺いしたところ、87%をこえる方々が「利用したい」という意向をお示しになりました。学会事務局の現状からいいますぐそのご期待にそうことはむつかしいのですが、この会員の声に応え、個々の会員の文献調査のお手伝いをする体制を早急に学会内にととのえるよう当委員会としても努力いたす所存です。なお、今回のアンケートの中に、抄録された論文の原文を

有料複写するサービスを希望されるご意見がありました。この点も当然考慮すべきことでありながら、学会の体制は十分ととのっておりませんが、当委員会にご相談下されば、可能な範囲の配慮を致したいと思えます。(パンチカードによる文献整理法については、会誌46巻7号118ページ記事を御参照下さい)

(4) 文献調査委員会の活動について

冒頭に述べましたように、当委員会では、文献抄録、文献目録の作成、パンチカードによる文献整理などの定常的な業務のほかに、海外文献から得られる情報にもとづき、会員の方々のお役に立つ資料や解説記事を提供するべく、種々の企画を検討しております。たとえば、各専門分野ごとの1年間の世界的動向とか、土木技術に関する新しい話題を中心とした概観、あるいは、国際会議の論文集にもとづく研究動勢の歴史的展望など、順次会誌に発表してゆく予定です。今回のアンケートにおいても、当委員会が企画している方向を希望されるご意見が数多く見られたことは、大へん心強い次第でした。さきに会誌48巻1号に掲載した「国内機関の外国雑誌備付リスト」の企画についても、90%の御支持を得、当委員会としては今後もこの種のリストの作成に努力いたします。さし当り「国際会議論文集備付リスト」を近々承認に掲載する予定です。なお、外国雑誌備付リストの別刷を希望されるご意見がありましたが、学会へお申し出下さればどなたにでも差し上げます。

むすび

今回実施した文献調査委員会の活動に関するアンケートの集約結果を報告する機会に、いささか当委員会の業務の一端を紹介して、会員の皆様との親密をはかりたいと考えた次第です。今回のアンケートを通じて、多くの会員の方々から身に過ぎる期待と激励をたまわり、委員一同あらためてその重責を感じて今後一層の努力を誓いました。有益な御意見をたまりましたアンケート回答者の皆様に紙上をかりて厚くお礼申し上げ、同時に会員各位に対し、当委員会のご指導とご協力をお願い申し上げます。

昭和38年度文献調査委員会委員

委員長	千秋 信一	委員兼幹事	船越 稔		
委員	川口 昌宏	北原 義浩	波木 守	中山 紀男	
	深沢 泰晴	宮原 玄	矢部 正宏	是枝 忍	
	佐佐木 毅	服部 昌太郎	橋本 宏	水越 三郎	
	山口 高志	森平 倫生	坪 叔男	伊関 治郎	
	大野 善雄	今田 徹	椎名 彪	中田 肇	
	中村 繁之	藤井 治芳	藤井 寿明	宮川 房夫	
	森下 忠幸				